

高知県感染症発生動向調査（週報）

2016年 第36週（9月5日～9月11日）

蚊やマダニに刺咬されないように注意しましょう！

屋外では長袖・長ズボンを着用するなど
肌の露出をできるだけ少なくしましょう。



★お知らせ

☆夏型感染症（咽頭結膜熱（プール熱）・ヘルパンギーナ・手足口病）に気を付けて！

咽頭結膜熱・ヘルパンギーナ・手足口病は夏期を中心に流行するウイルス性の感染症です。

咽頭結膜熱は県内全域で増加し、中央西では2週連続で警報値を超え、高知市では注意報値を超えています。ヘルパンギーナ、手足口病は急減していますが、引き続き夏型感染症に注意してください。

これらの夏型感染症は主にウイルスが含まれた咳やくしゃみを吸いこんだり、手を介して口に触れたりすることで感染します。幼稚園、保育園、学校等の集団生活では手洗い、うがい等の予防対策に加えて、タオル・コップ等の共用を避ける等して、感染予防に努めてください。これらの感染症はほとんどの場合、予後は良好です。しかし、まれにですが重症化し、重篤な症状を呈することもありますので、早めに医療機関を受診してください。

○咽頭結膜熱（プール熱）に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第35週の0.63から第36週は0.97と増加しています。高知市、幡多では増加し、中央西では警報値を超え、高知市では注意報値を超えています。

咽頭結膜熱は、主に夏期に流行し、プールでの感染があることから「プール熱」とも呼ばれます。

主な症状は、発熱・咽頭炎・結膜炎で、その他に、リンパ節の腫れ、腹痛、下痢などが生じることもあります。

感染力は非常に強く、患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスによって感染、あるいは、ウイルスが付着した手やタオルなどの患者が触れたものを介して感染します。

また、プールでは眼の結膜からの感染も考えられています。

予防対策は手洗い、うがいの励行です。

プールを利用する際は、前後のシャワーを必ず浴び、タオルを他人と共用しないようにし、流水と石けんによる手洗い、うがいをしましょう。

○百日咳に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第35週の0.07から第36週では0.10と増加しています。中央西で増加し、高知県全域と中央西では注意報値を超えています。また、病原体検出情報では、*Bordetella pertussis*が1例報告されています。

百日咳は、感染力が強く、軽症でも菌の排出があるため、注意が必要です。

特に生後6ヶ月未満の乳児では無呼吸発作等、重篤になる場合もあるので、予防接種をしていない新生児、乳児がいる場合は特に感染に対する注意が必要です。

予防対策は予防接種、うがい、手洗い、咳エチケットです。

感染予防のためにワクチン接種をお勧めします。ワクチンは生後3ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

○マイコプラズマ肺炎に気を付けて！

第36週も基幹定点からの7例に加えて、定点医療機関からのホット情報では31例の報告があるなど、引き続き報告数の多い状態が続いていることから、注意が必要です。

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマによって起こる呼吸器感染症で、幼児期から学童期によく見られます。頑固な咳嗽と発熱を主症状に発病し、中耳炎、胸膜炎、心筋炎、髄膜炎などの合併症を生じることがあります。

感染経路は主に飛まつ感染や接触感染です。保育園や幼稚園、学校、あるいは家庭内等での濃厚な接触で感染します。患者の感染力は発症から10日前後（症状持続の例でも6週間程度）で消失しますが、この間は濃厚な接触は避けるようにしましょう。

予防対策は手洗い、うがい、咳エチケットを励行しましょう。

☆マダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS）に注意！

日本紅斑熱の報告が1例ありました。

日本紅斑熱やSFTS（重症熱性血小板減少症候群）はマダニが媒介する感染症です。

すべてのマダニが病原体を持っているわけではありませんが、ダニに咬まれないようにすることが感染の予防になります。予防するためのワクチン等はありません。まだ、マダニが活発に活動する時期です。引き続き、注意が必要です。

野山や畑、草むらなどに出かけるときは十分注意しましょう。

長袖・長ズボンを着用し、シャツの裾はズボンの中に入れ、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる等、肌の露出を少なくし、マダニ用の忌避剤を使用する等して、マダニに咬まれないようにしましょう。吸血中のマダニを見つけたら、無理に引き抜こうとせず、医療機関を受診し処置してもらいましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～2週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。また受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

- 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

- 高知県衛生研究所 マダニによる感染症の注意喚起パンフレットを作成しました。

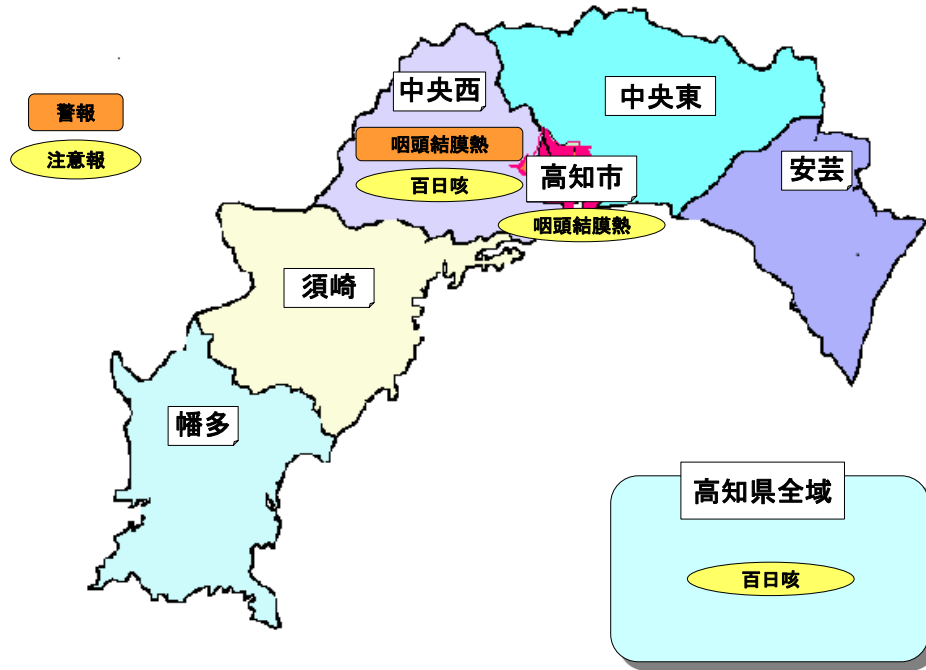
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2016061300063.html>

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患）  : 急増  : 増加  : 横ばい  : 減少  : 急減
36週（9月5日～9月11日）

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎		2.40	高知市、幡多、須崎、中央西で増加しています。
咽頭結膜熱		0.97	高知市、幡多では増加し、中央西では警報値を超え、高知市では注意報値を超えています。
水痘		0.93	須崎、高知市、中央東、安芸で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.63	高知市、須崎で増加しています。
突発性発疹		0.53	須崎、中央東、幡多で増加しています。

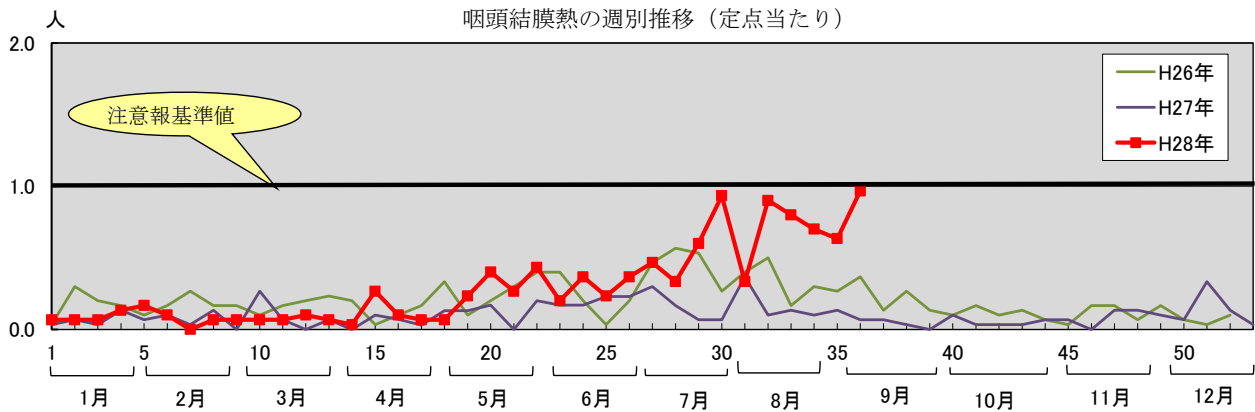
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

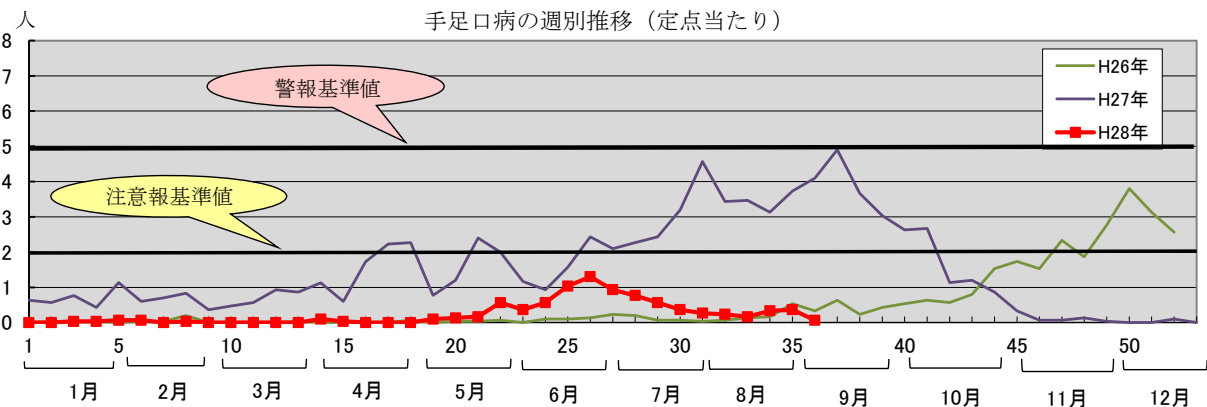
○咽頭結膜熱 第36週： 0.97 (注意報値：1.00 警報値：3.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 0.97 (前週：0.63) と増加しています。中央西 3.33 (前週：3.33) では警報値を超え、高知市では注意報値を超えています。高知市 1.55 (前週：0.73)、幡多 0.20 (前週：0.00) で増加しています。



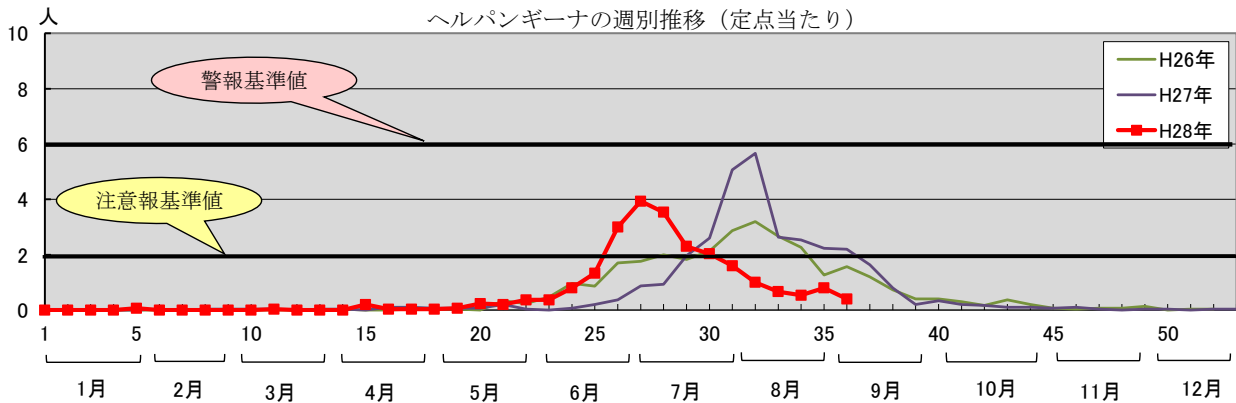
○手足口病 第36週： 0.07 (注意報値：2.00 警報値：5.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 0.07 (前週：0.37) と急減しています。



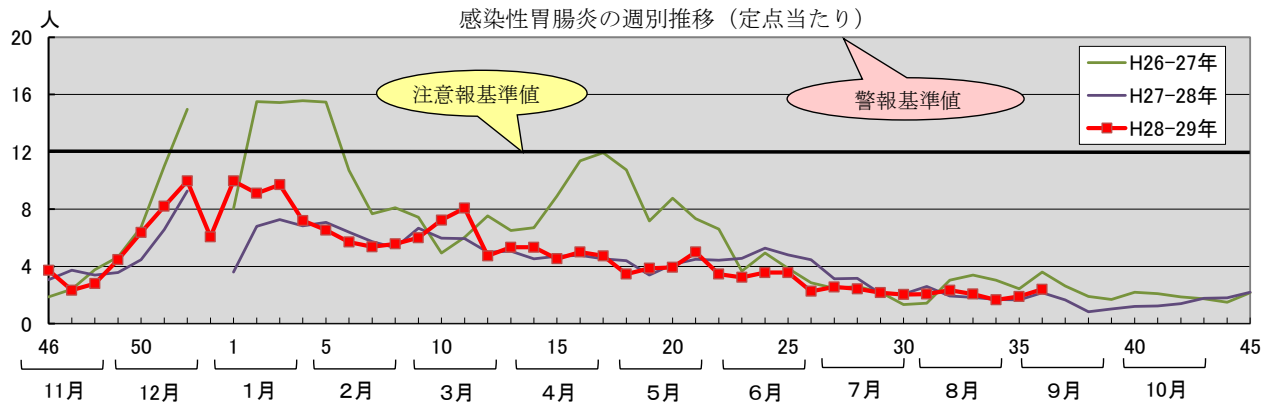
○ヘルパンギーナ 第36週： 0.40 （注意報値：2.00 警報値：6.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 0.40（前週：0.80）と急減していますが、須崎 1.50（前週：1.00）で増加しています。



○感染性胃腸炎 第36週： 2.40 （注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 2.40（前週：1.90）と増加しています。高知市 3.36（前週：2.27）、幡多 2.20（前週：1.80）、須崎 1.50（前週：0.50）、中央西 1.33（前週：0.00）で増加しています。



※グラフの途切れについて

H27-H28年は第53週までであるため、グラフ横軸に第53週を挿入しています。

そのため、H25-H26年とH26-H27年のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
36	百日咳	7	女	須崎	<i>Bordetella pertussis</i>
36	感染性胃腸炎	5	女	安芸	<i>Salmonella Enteritidis</i>
36	RSウイルス感染症	2ヶ月	男	中央東	Respiratory syncytial virus A

★全数把握感染症

第36週

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
4類	日本紅斑熱	1	10	60歳代男	高知市
5類	梅毒	1	11	70歳代男	

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
中央東	あけぼのクリニック	マイコプラズマ感染症1例（11歳）
	いちはら内科小児科	病原性大腸菌血清型0-1 1例（10歳男）
	おひさまこどもクリニック	カンピロバクター腸炎1例（10歳男※35週検出）
	早明浦病院小児科	カンピロバクター腸炎1例（5歳男）
	高知大学医学部附属病院小児科	マイコプラズマ肺炎1例（9歳7ヶ月男）
	野市中央病院小児科	マイコプラズマ肺炎2例（2歳男、6歳女） 病原性大腸菌0-25 1例（10歳男：ペロ毒素-）
高知市	けら小児科・アレルギー科	マイコプラズマ肺炎4例（4歳男、5歳男、9歳女、15歳女）
		アデノウイルス扁桃炎9例（2歳男、3歳女2人、4歳男2人、5歳男3人、5歳女）
		病原性大腸菌0-25腸炎2例（2歳男、10歳女）
		ヒトメタニューモウイルス肺炎1例（0歳女）
	細木病院小児科	ノロウイルス3例（9ヶ月男、1歳女、4歳女）
	福井小児科・内科・循環器科	アデノウイルス感染症3例（4歳男、4歳女2人）
		アデノウイルス感染症と溶連菌感染症合併1例（4歳男） 溶連菌感染症8例
	三愛病院小児科	マイコプラズマ肺炎3例（5歳男、10歳女、13歳女）
アデノウイルス感染症1例（5歳男）		
カンピロバクター腸炎1例（4歳男）		
高知医療センター小児科	ヒトメタニューモウイルス感染症2例（7ヶ月女、5歳男）	
中央西	くぼたこどもクリニック	ヘルペス性歯肉口内炎1例（2歳女）
		ヘルパンギーナ1例（1歳男：県外から帰省）
		アデノウイルス感染症1例（3歳男）
	石黒小児科	マイコプラズマ肺炎1例（13歳女）
	日高クリニック	ヒトメタニューモウイルス感染症1例（7ヶ月女）
		マイコプラズマ肺炎1例（5歳男）
アデノウイルス扁桃炎2例（3歳女、5歳女）		
須 崎	もりはた小児科	マイコプラズマ肺炎5例（1歳、3歳、5歳2人、9歳）
		水痘7例（内1例5歳：ワクチン2回スミ）
		腸管出血性腸炎（0-26）VT ₁ 陽性 1例
		百日咳1例（7歳女LAMP+ ※35週検出）
幡 多	こいけクリニック	マイコプラズマ肺炎13例（11ヶ月男、2歳男女、3歳男、4歳男、4歳女2人、6歳女、8歳女、9歳男2人、12歳男2人内 4歳男、9歳男：兄弟 2歳女、4歳女：姉妹）
	さたけ小児科	ヒトメタニューモウイルス感染症1例（1歳男）

★全国情報

麻疹

麻疹（はしか）の流行が問題となっています。

麻疹は、発熱・咳・鼻水といった風邪のような症状の後、高熱と発疹が現れ、空気感染、飛沫感染、接触感染により感染し、その感染力は非常に強いと言われています。

発熱等の麻疹が疑われる症状が現れた場合は、医療機関に直ぐに受診をするのではなく、必ず事前にかかりつけ医等に電話連絡でその旨を伝え、指示に従い、医療機関を受診しましょう。

- ・麻疹は予防接種が有効です。定期接種は対象年齢になったら確実に2回受けましょう。
- ・麻疹は感染力が非常に強い感染症です。自分が感染しないためだけでなく、周りの人に感染を広げないためにも予防接種は重要です。予防接種を受けてない方や、予防接種が1回だった年代の方（概ね26歳以上の方）については十分な免疫を獲得してない可能性があることから、特に注意が必要です。
- ・妊娠中に麻疹に罹患すると、一般に重症化することが知られています。妊娠中の接種はできませんが、これから妊娠を計画されている方は予防接種を受けることをご検討ください。
- ・麻疹流行時には外出を避け、人込みに近づかないようにするなど注意が必要です。特に感染者が多く報告されているところへ出かける際は注意しましょう。

○高知県健康対策課 麻疹・風しんに関する情報

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/kansen-yobousesyymashin.html>

○厚生労働省 麻疹（はしか）に関するQ&A

<http://www.mhlw.go.jp/qa/kenkou/hashika/index.html>

○国立感染症研究所感染症疫学センター 麻疹に関する緊急情報(2016年8月25日)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/655-disease-based/ma/measles/idsc/6709-20160825.html>

第33週以降、全国各地で麻疹の患者報告が相次いでおり、今年全国の麻疹患者報告数は9月4日時点で82名と、昨年1年間の報告数35名を大きく超えています。

特に35週の報告数は26名と急増しています。

特に大阪府、千葉県、兵庫県からの報告が相次いでおり、それぞれの報告数は、大阪府26名、千葉県18名、兵庫県10名となっています。

国立感染症研究所麻疹情報（速報）は次のとおり発信されています。

○国立感染症研究所 感染症発生動向調査（IDWR）麻疹第35週速報

<http://www0.nih.go.jp/niid/idsc/idwr/diseases/measles/measles2016/meas16-35.pdf>

○国立感染症研究所 麻疹ウイルス分離・検出速報

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-measles.html>

■ジカウイルス感染症の定義と発生届について

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の施行令が一部改正され、平成28年2月15日からジカウイルス感染症が全数報告の対象となる四類感染症となりました。

診断した医師は直ちに最寄りの保健所又は福祉保健所に届け出ることをお願いします。

●国立感染症研究所 ジカウイルス感染症のリスクアセスメント 2016年8月10日更新

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/>

●厚生労働省検疫所 海外感染症情報

<http://www.forth.go.jp/index.html>

●外務省 海外安全ホームページ

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

●国立国際医療研究センター ジカ熱/ジカウイルス感染症 2016年9月6日更新

<http://www.dcc-ncgm.info/topic/topic-ジカウイルス感染症/>

●ジカウイルス感染症 定義（厚生労働省）

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/01-04-44.html>

●ジカウイルス感染症 発生届様式（PDF）

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/pdf/01-04-44b.pdf>

●ジカウイルス感染症について（厚生労働省）

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000109881.html>

●政府広報オンライン 何が危ない？どう防ぐ？ジカウイルス感染症（ジカ熱）予防のポイント

<http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201605/2.html>

●オリンピック・パラリンピックでブラジルへ渡航される方へ

<http://www.forth.go.jp/news/2016/02051708.html>

●外務省海外安全ホームページ マレーシアにおけるジカウイルス感染症の発生 2016年9月4日更新

<http://www2.anzen.mofa.go.jp/info/pcspotinfo.asp?infocode=2016C240>

第34号（8月22日～8月28日）

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核354例

3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症151例

4類感染症：E型肝炎3例、A型肝炎5例、回帰熱1例、コクシジオイデス症1例、重症熱性血小板減少症候群1例、デング熱13例、日本紅斑熱7例、レジオネラ症17例、レプトスピラ症1例

5類感染症：アメーバ赤痢12例、ウイルス性肝炎5例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症22例、急性脳炎9例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例、後天性免疫不全症候群13例、侵襲性インフルエンザ菌感染症1例、侵襲性肺炎球菌感染症13例、水痘（入院例に限る）4例、梅毒66例、播種性クリプトコックス症1例、破傷風1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、風しん1例、麻しん9例

報告遅れ：E型肝炎1例、エキノコックス症1例、日本紅斑熱1例、マラリア1例、レジオネラ症1例、レプトスピラ症6例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症11例、急性脳炎5例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例、水痘（入院例に限る）3例、梅毒39例

★注目すべき感染症

◆腸管出血性大腸菌感染症 2016年第1～34週（2016年8月31日現在）

腸管出血性大腸菌（EHEC）感染症は、Vero毒素（Vero toxin：VTまたはShiga toxin：Stx）を産生、またはVT遺伝子を保有するEHECの感染によって起こる全身性疾病で、主訴は腹痛、水様性下痢および血便である。EHEC感染に引き続いて発症することがある溶血性尿毒症症候群（HUS）は、死亡あるいは腎機能障害や神経学的障害などの後遺症を残す可能性のある重篤な疾患である。

2016年のEHEC感染症報告数は、第23週（2016年6月6～12日）から増加し始め、第25週（同6月20～26日）に週当たりの報告数が100例を超えた。第33週は、規模の大きい集団発生の影響で238例が報告された。本年第34週（同8月22～28日）までの累積報告数2,078例は、直近4年間（2012～2015年）の各年同週までの累積報告数と比較して、最も少ない報告数であった（2012年2,272例、2013年2,365例、2014年2,844例、2015年2,271例）。また、患者（有症状者）のみに絞った累積報告数においても、1,322例と、最も少ない報告数であった（2012年1,392例、2013年1,636例、2014年2,033例、2015年1,549例）。

第1～34週の累積報告数を都道府県別にみると、東京都（261例）が最も多く、次いで大阪府（142例）、神奈川県（116例）、埼玉県と兵庫県（各101例）の順であった。第25週以降に起きた集団発生（食中毒を含む）は、第28週に滋賀県の飲食店（食中毒、O157 VT1・VT2）、第32週に佐賀県の保育園（O157 VT2）、第33週に青森県の保育園（O157 VT2）でそれぞれ報告されている。

性別では、男性が947例（46%）、女性が1,131例（54%）で、年齢群別では0～9歳が687例（33%）、20～29歳が330例（16%）、30～39歳が241例（12%）、10～19歳が235例（11%）の順であった。

EHEC感染症の重篤な合併症であるHUSの発症は、第34週までに累計49例〔うち、女性33例（67%）〕が報告された。直近4年間の同週までの累積報告数と比較すると、2013年と並び、最も少ない報告数であった（2012年59例、2013年49例、2014年73例、2015年50例）が、届出時点で患者全体に占めるHUS発症者の割合は3.7%で、2012年に次いで2番目に高かった（2012年4.2%、2013年3.0%、2014年3.6%、2015年3.2%）。年齢群別では0～4歳が19例で最も多く、次いで5～9歳が9例と、10歳未満の小児でHUS症例全体の57%を占めた。例年同様、女性と低年齢の小児で発症が多く報告されている。血清群別ではO157が26例（53%）で、そのうちO157 VT2が15例（58%）であった。

届出時点におけるEHEC感染症の脳症は2例（うち1例はHUS発症）、死亡は6例（うち2例はHUS発症）報告されている。死亡例の年齢群は、0～4歳1例、30代1例、60代2例、80代1例、90代1例であった。

EHECは少量の菌数（10～100個程度）でも感染が成立し、人から人への経路、または人から食材・食品への経路等で感染が拡大しやすい。EHEC感染症が多発する夏季は、食肉の十分な加熱処理、食材・調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などを行うことにより、食中毒の予防を徹底することが重要である。また、調理食品は速やかに喫食し、長時間室温放置せず、冷蔵庫や冷凍庫に保存することも重要である。特に、低年齢の小児はEHEC感染とその後のHUS発症のリスクが高いため、肉・レバーなどは十分に加熱してから喫食することが必要である。肉やレバーの生食はEHECに汚染されている可能性が否定できないため控えることが必要である。焼く前の生肉などに使用する箸は使い分けることなどにも注意が肝要である。

2011年、2012年の牛生肉・牛生レバー規制強化後、「牛生肉」または「牛生レバー」喫食の記載があったO157の報告数は対策実施前に比較して減少したが、「牛生肉」または「牛生レバー」の喫食者が一定数報告されている。継続的に「牛生肉」または「牛生レバー」の喫食者によるO157発症報告の状況のモニタリングを行い、リスク評価を行っていくことが重要である。

下痢や腹痛等の症状がある場合は、人から人への二次感染を予防するための注意が必要である。毎年保育施設における集団発生が多くみられており、日ごろからの注意として、オムツ交換時の手洗い、園児に対する排便後・食事前の手洗い指導の徹底が重要である。高齢者施設でも集団発生はみられており、小児や高齢者での経口感染予防や早期受診が重要である。

また、簡易プールなどの衛生管理にも注意を払う必要がある。さらに、過去には動物とのふれあい体験での感染と推定される事例も報告されており、動物との接触後の十分な手洗いや消毒が必要である。

※第36週（9月12日から9月18日）の週報は、9月19日（月）が祝日となり、定点医療機関からの報告が翌9月20日（火）となることから、公表は9月21日（水）の15時以降となる予定です。

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第36週 平成28年9月5日(月)～平成28年9月11日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第36週							計	前週	全国(35週)	高知県(36週末累計) H28/1/4～H28/9/11	全国(35週末累計) H28/1/4～H28/9/4
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多						
インフルエンザ	インフルエンザ								()	()	161 (0.03)	14,927 (310.98)	1,583,406 (320.59)	
小児科	咽頭結核熱			17	10	1	1		29 (0.97)	19 (0.63)	1,351 (0.43)	322 (10.73)	49,434 (15.67)	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1	15	1	2			19 (0.63)	23 (0.77)	3,981 (1.26)	1,930 (64.33)	267,912 (84.94)	
	感染性胃腸炎	5	12	37	4	3	11		72 (2.40)	57 (1.90)	12,291 (3.90)	4,911 (163.70)	618,806 (196.20)	
	水痘	1	7	13		7			28 (0.93)	8 (0.27)	690 (0.22)	288 (9.60)	42,582 (13.50)	
	手足口病			1		1			2 (0.07)	11 (0.37)	2,204 (0.70)	260 (8.67)	27,265 (8.64)	
	伝染性紅斑			5	1	1			7 (0.23)	5 (0.17)	525 (0.17)	249 (8.30)	45,032 (14.28)	
	突発性発疹		6	7		2	1		16 (0.53)	11 (0.37)	1,707 (0.54)	366 (12.20)	52,915 (16.78)	
	百日咳			1	2				3 (0.10)	2 (0.07)	80 (0.03)	77 (2.57)	2,058 (0.65)	
	ヘルパンギーナ		2	4	1	3	2		12 (0.40)	24 (0.80)	6,155 (1.95)	707 (23.57)	102,818 (32.60)	
	流行性耳下腺炎			4	1			8	13 (0.43)	18 (0.60)	2,959 (0.94)	652 (21.73)	104,751 (33.21)	
RSウイルス感染症		2	4					6 (0.20)	18 (0.60)	2,725 (0.86)	650 (21.67)	34,474 (10.93)		
眼科	急性出血性結膜炎								()	()	9 (0.01)	()	277 (0.40)	
	流行性角結膜炎								()	1 (0.33)	624 (0.90)	13 (4.33)	16,760 (24.25)	
基幹	細菌性髄膜炎		1	1					2 (0.25)	()	10 (0.02)	8 (1.00)	322 (0.68)	
	無菌性髄膜炎			1					1 (0.13)	()	53 (0.11)	31 (3.88)	918 (1.94)	
	マイコプラズマ肺炎		1	2			4		7 (0.88)	16 (2.00)	415 (0.88)	201 (25.13)	10,376 (21.89)	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)								()	()	2 ()	26 (3.25)	241 (0.51)	
	感染性胃腸炎								()	()	7 (0.01)	234 (29.25)	5,021 (10.59)	
計 (小児科定点当たり人数)	6 (3.00)	32 (4.29)	112 (9.80)	20 (6.65)	20 (10.00)	27 (4.60)	217 (6.89)			35,949	25,852 (658.05)	2,965,368		
前週 (小児科定点当たり人数)	14 (7.00)	34 (4.71)	110 (9.18)	20 (6.65)	6 (3.00)	29 (4.40)		213 (6.55)						

注 () は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第36週							計	前週	全国(35週)	高知県(36週末累計) H28/1/4～H28/9/11	全国(35週末累計) H28/1/4～H28/9/4
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多						
インフルエンザ	インフルエンザ										0.03	310.98	320.59	
小児科	咽頭結核熱			1.55	3.33	0.50	0.20		0.97	0.63	0.43	10.73	15.67	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.14	1.36	0.33	1.00			0.63	0.77	1.26	64.33	84.94	
	感染性胃腸炎	2.50	1.71	3.36	1.33	1.50	2.20		2.40	1.90	3.90	163.70	196.20	
	水痘	0.50	1.00	1.18		3.50			0.93	0.27	0.22	9.60	13.50	
	手足口病			0.09		0.50			0.07	0.37	0.70	8.67	8.64	
	伝染性紅斑			0.45	0.33	0.50			0.23	0.17	0.17	8.30	14.28	
	突発性発疹		0.86	0.64		1.00	0.20		0.53	0.37	0.54	12.20	16.78	
	百日咳			0.09	0.67				0.10	0.07	0.03	2.57	0.65	
	ヘルパンギーナ		0.29	0.36	0.33	1.50	0.40		0.40	0.80	1.95	23.57	32.60	
	流行性耳下腺炎			0.36	0.33		1.60		0.43	0.60	0.94	21.73	33.21	
RSウイルス感染症		0.29	0.36					0.20	0.60	0.86	21.67	10.93		
眼科	急性出血性結膜炎									0.01		0.40		
	流行性角結膜炎								0.33	0.90	4.33	24.25		
基幹	細菌性髄膜炎		1.00	0.20					0.25		0.02	1.00	0.68	
	無菌性髄膜炎			0.20					0.13		0.11	3.88	1.94	
	マイコプラズマ肺炎		1.00	0.40			4.00		0.88	2.00	0.88	25.13	21.89	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)											3.25	0.51	
	感染性胃腸炎										0.01	29.25	10.59	
計 (小児科定点当たり人数)	3.00	4.29	9.80	6.65	10.00	4.60	6.89				658.05			
前週 (小児科定点当たり人数)	7.00	4.71	9.18	6.65	3.00	4.40		6.55						

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869